

# 大阪・泉南 アスベスト 国家賠償請求訴訟(2陣訴訟)

70年前、国自身の調査(保険院調査)によって深刻なアスベスト被害が確認された泉南アスベスト被害。その被害は、長期に亘って途絶えることなく、地域ぐるみ、家族ぐるみで進行してきました。

2010年5月19日、大阪地方裁判所は、1陣訴訟において、国の責任を明確に認める判決を下しましたが、2011年8月25日、大阪高等裁判所は、生命・健康よりも産業発展を優先し、国の責任をすべて免罪する不当判決を言い渡しました。

1陣提訴から5年余、5名の原告が解決を見ることなく肺がん等で死亡し、多くの原告が病気の重篤化で苦しんでいます。

「いのちあるうちに救済を」、この原告らの切実な願いを実現するためには、再び国の規制権限不行使の責任を認め、原告らを救済する判決が求められています。

私たちは、貴裁判所が、被害の深刻さに正面から向き合い、再び国の法的責任を明確に認める判決を下すことを強く要望します。

## 全面救済を求める判決署名

## 大阪地方裁判所第8民事部

裁判長 小野 憲一 殿  
裁判官 松永 栄治 殿  
裁判官 林田 敏幸 殿

氏名	住所

取り扱い団体

※署名用紙に記入された情報は、個人情報として適切に管理します。

# アスベスト被害者(2陣訴訟)の訴え

石綿肺や肺がんなどの石綿関連疾患は、労作時の息切れ、咳、痰にはじまり、病状が進行すると咳や痰が一層激しくなり、その肉体的、精神的苦痛は甚大です。治療方法もなく、最後は、呼吸機能の低下や肺がんの併発によって死に至ります。国は、こうした深刻な泉南石綿被害を「知ってた」し、被害防止が「できた」にもかかわらず、長期に亘って放置したのです。私たちは、最後まで国の責任を問い続けます。そんな私たちの訴えを聞いて下さい。

<p><b>迫園 敬吉さん</b> (78歳、び慢性胸膜肥厚)</p>  <p>外出は病院だけです、1日でも長生きしたいです。昔、石綿を吸った妻と娘2人のことも心配です。</p>	<p><b>辻野 久男さん</b> (86歳、び慢性胸膜肥厚)</p>  <p>今の私は、生きながら死んでいるのと同じです。ただ生きて少し呼吸をしているというだけです。</p>	<p><b>故 川崎 武雄さん</b> (享年88歳、石綿肺)</p>  <p>あまりの苦しみように、「死ぬ方が親父の方も楽なや」と思うことさえありました。(息子・川崎武次さん談)</p>	<p><b>故 山田 英介さん</b> (享年70歳、腹膜中皮腫)</p>  <p>お金の問題ではありません。国は謝罪してください。今すぐ父を返して下さい。(息子・山田哲也さん談)</p>	<p><b>故 白谷 國雄さん</b> (享年70歳、肺がん)</p>  <p>術後4か月で亡くなりました。嫌がる手術を無理に受けさせたことを後悔しています。(娘・山内愛子さん談)</p>	<p><b>藤原 ミヨコさん</b> (76歳、石綿肺)</p>  <p>痰が切れず、24時間、鼻と喉の奥にへばりついていました。手でひっぱって出したくらいです。</p>
<p><b>故 新宮 均さん</b> (享年66歳、石綿肺・肺がん)</p>  <p>告知から1年半、あっという間に亡くなりました。50年連れ添った夫を返して下さい。(妻・新宮ミチエさん談)</p>	<p><b>高山 良子さん</b> (76歳、石綿肺・続発性気管支炎)</p>  <p>「ウォー」と叫ばなければ、喉の奥から痰が出てきません。内臓がこみ上げてきそうになります。</p>	<p><b>仲谷 親幸さん</b> (69歳、石綿肺・肺がん)</p>  <p>生き甲斐も、動く体力も気力もありません。妻曰く「人間を捨てたように」寝ているだけの毎日です。</p>	<p><b>故 原口 守直さん</b> (享年73歳、石綿肺)</p>  <p>20年以上苦しみ抜いた夫の肺は、火葬された後も黒い塊になって残りました。(妻・原口久子さん談)</p>	<p><b>水本 美代子さん</b> (68歳、石綿肺)</p>  <p>管理区分1から4へと一気に進んでしまいました。「来年まで元気でいる」と、娘と約束しました。</p>	<p><b>故 瀬占 吉美さん</b> (享年52歳、石綿肺・続発性気管支炎)</p>  <p>「しんどい」と苦しみ抜いて、夫は死にました。私はあんなに苦しみに死にたいです。(妻・瀬占マスさん談)</p>
<p><b>赤松 四郎さん</b> (74歳、石綿肺)</p>  <p>もう裁判所に行く力もありません。死が迫っています。生きているうちに解決してください。</p>	<p><b>寺西 千世子さん</b> (75歳、石綿肺)</p>  <p>一番重い管理区分4です。しゃべるのもしんどいです。なので、普段はずっと横になっています。</p>	<p><b>松本 ケイ子さん</b> (81歳、石綿肺)</p>  <p>娘は、仕事をやめ、睡眠をけずって、私を介護してくれています。石綿は、娘の人生も狂わせました。</p>	<p><b>松山 尋子さん</b> (71歳、石綿肺・続発性気管支炎)</p>  <p>日に20～30回も痰を出します。咳き込み、夜も十分眠れません。体重は35キロしかありません。</p>	<p><b>植野 幸代さん</b> (68歳、石綿肺・続発性気管支炎)</p>  <p>ヘルパーとして人の役に立つことがささやかな夢でした。今は、自分が家族の世話になっています。</p>	<p><b>故 和泉 利雄さん</b> (享年72歳、石綿肺)</p>  <p>夫は、石綿原料を運んでいました。あと2年で、金婚式を迎えることができたのに。(妻・和泉洋子さん談)</p>
<p><b>亀岡 三郎さん</b> (70歳、石綿肺)</p>  <p>夫婦とも、胸に、石綿という爆弾を抱えています。片時も、不安から逃げられませんが。</p>	<p><b>故 澤井 石正さん</b> (享年67歳、石綿肺・肺がん)</p>  <p>看護師さんの手にかみつくほど苦しみました。声も出ず、骸骨のような姿で亡くなりました。(妻・澤井たま江さん談)</p>	<p><b>故 勝賀瀬 喜代子さん</b> (享年74歳、肺がん)</p>  <p>石綿工場で働いたのは、20年も前なのに。妻は「なんで今ごろ」と悔しがりました。(夫・勝賀瀬龍雄さん談)</p>	<p><b>故 徳永 英士さん</b> (享年73歳、石綿肺)</p>  <p>11年余の長い長い闘病生活。10年以上も、酸素につながれた生活でした。(妻・徳永信子さん談)</p>	<p><b>井上 國雄さん</b> (81歳、び慢性胸膜肥厚)</p>  <p>咳き込みが激しくて、医者に「寝てる間に死んでしまうような薬はないやろか」と頼みました。</p>	<p><b>故 榎谷 喜美子さん</b> (享年68歳、石綿肺)</p>  <p>せっかく腰の手術が成功したのに、石綿肺のせいで死期を早めてしまいました。(娘・出口美知代さん談)</p>
<p><b>松本 幸子さん</b> (74歳、石綿肺・続発性気管支炎)</p>  <p>肺がんの疑いがあると言われました。毎日、不安で不安でたまりません。</p>	<p><b>畠山 重信さん</b> (67歳、石綿肺)</p>  <p>毎年妻と2人で花見に行くのが楽しみでした。まだ1人では行けません。春は嫌いです。 <b>故 畠山 幸子さん</b> (享年64歳、石綿肺)</p>	<p><b>中田 秀子さん</b> (78歳、び慢性胸膜肥厚)</p>  <p>夫婦で石綿工場で働きました。夫は57歳で亡くなり、私は酸素チューブにつながら生きています。 <b>故 中田 敏夫さん</b> (享年57歳、肺がん)</p>	<p><b>春本 利子さん</b> (76歳、石綿肺・びまん性胸膜肥厚)</p>  <p>苦しんで暴れ、手足を縛られて、酸素吸入器をテープで固定された夫の姿が忘れられません。 <b>故 春本 元洙さん</b> (享年68歳、石綿肺)</p>	<p><b>南條 霧鳥さん</b> (68歳、石綿肺)</p>  <p>激しい咳や痰に苦しむようになり、石綿肺で苦しんだ夫の気持ちがよくわかるようになりました。 <b>故 南條 正富さん</b> (享年74歳、石綿肺)</p>	

大阪・泉南アスベスト国家賠償請求訴訟原告団・弁護団  
大阪泉南地域のアスベスト国家賠償訴訟を勝たせる会  
泉南地域の石綿被害と市民の会

カンパにご協力をお願いします

「勝たせる会」連絡先  
〒590-0515 大阪府泉南市信達六尾595  
TEL.072-483-4981 FAX.072-484-0641  
E-mail: kataseru@asbestos-osaka.sakura.ne.jp  
ホームページ <http://www.asbestos-osaka1.sakura.ne.jp/kataseru>  
振込先：郵便振替口座 00930-9-252144  
泉南地域の石綿被害と市民の会